

KAITEKI Value for Tomorrow

株式会社三菱ケミカルホールディングス会社説明会 (証券コード：4188)

2020年3月開催

株式会社三菱ケミカルホールディングス
取締役 執行役常務 最高財務責任者 伊達 英文



本日の内容

1. 私たち、三菱ケミカルホールディングスは総合化学会社です
 - 1-1 会社概要
 - 1-2 事業領域と業績
2. 三菱ケミカルホールディングスのこれから
 - 2-1 中期経営計画APTSIS20と進捗
 - 2-2 成長戦略
3. KAITEKI経営の深化
4. KAITEKI Vision 30

1. 私たち

三菱ケミカルホールディングスは
総合化学会社です

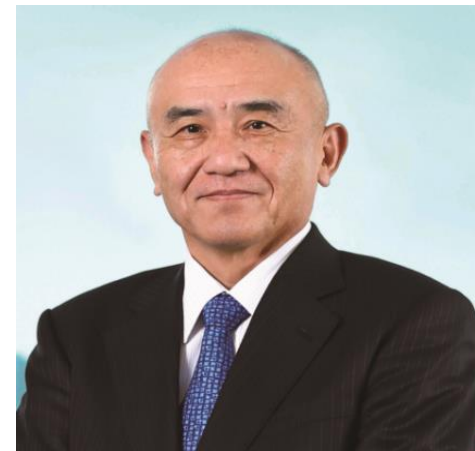
1-1 会社概要

1-2 事業領域と業績

1-1. 会社概要

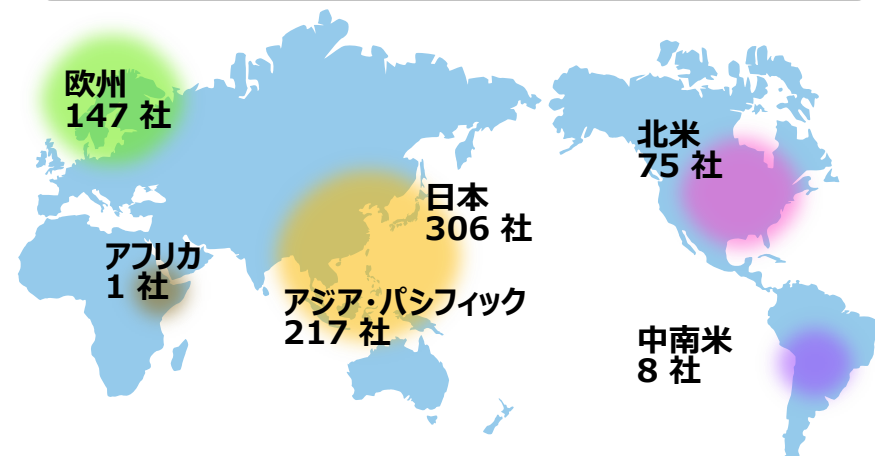
資本金	500 億円
連結売上収益 (2019年3月期実績)	3兆9,234億円
業界内ポジション	国内1位、海外6位
Source: Thomson Reuters (FORTUNE Global 500)による各社直近期 Data(2019年)	
連結コア営業利益※ (2019年3月期実績)	3,172 億円
※コア営業利益 IFRSの営業利益から非経常的な要因により発生した損益を除いた経常的な利益	
連結従業員数 (2019年3月期実績)	72,020人
関係会社数 (2019年3月期実績)	754社

海外売上高比率：42.4%
(2019年3月期実績)



代表執行役社長 越智 仁

グローバルネットワーク



(株)三菱ケミカルホールディングス (MCHC)

2005年10月～

事業分野：  機能商品  素材  ヘルスケア

100%  

三菱ケミカル(株)

2017年4月*～

連結売上収益:2.7兆円
従業員数：4.0万人

機能商品・素材 等

(*三菱化学、三菱樹脂、三菱レイヨンの3社を統合)

50.6% 

大陽日酸(株)

2014年11月～

連結売上収益:0.7兆円
従業員数：1.9万人

産業ガスおよび
関連機器・装置 等

100%(3/2予定) 

田辺三菱製薬(株)

2007年10月～

連結売上収益:0.4兆円
従業員数：0.7万人

医療用医薬品 等

100% 

**(株)生命科学
インSTITUTE**

2014年4月～

連結売上収益:
0.1兆円
従業員数:0.5万人
健康・医療ICT・
製薬支援・
次世代医療 等

 機能商品

 素材

 ヘルスケア

機能商品セグメント

機能部材

情電・ディスプレイ、高機能フィルム、
環境・生活ソリューション、
高機能成形材料

機能化学

高機能ポリマー、高機能化学、
新エネルギー

ケミカルズ セグメント

石化

炭素

MMA

産業ガス セグメント

産業ガス

ヘルスケアセグメント

医薬品

ライフサイエンス

(連結売上収益と従業員数は2018年度実績)

1-1. 会社概要

機能商品 11,701億円 686億円 2018年度実績 売上収益(上段) コア営業利益(下段)		情電・ディスプレイ	光学系フィルム、液晶・半導体関連等	      
		高機能フィルム	食品包装材、工業用・医療用フィルム等	
		環境・生活ソリューション	アクアソリューション、イオン交換樹脂、アグリソリューション、インフラ資材等	
		高機能成形材料	高機能エンジニアリングプラスチック、炭素繊維・複合材料、繊維、アルミナ繊維	
		高機能ポリマー	フェノール・ポリカーボネート、機能性樹脂、生分解性プラスチック等	
		高機能化学	コーティング材料、スペシャリティケミカルズ、食品機能材等	
		新エネルギー	LiB材料、LEDマテリアルズ等	
素材	ケミカルズ 12,707億円 1,311億円	MMA	MMA（原料）PMMA（アクリル樹脂）等	  
		石化	石化原料および誘導品、ポリオレフィン等	
		炭素	コークス、ニードルコークス、カーボンプラック、合成ゴム等	
	産業ガス 7,328億円 633億円	産業ガス	産業ガス、産業ガス関連機器・装置等	
ヘルスケア 5,457億円 569億円		医薬品	医療用医薬品等	 
		ライフサイエンス	カプセル・製剤機器、医療用原薬・中間体再生医療等	

1. 私たち

**三菱ケミカルホールディングスは
総合化学会社です**

1-1 会社概要

1-2 事業領域と業績

1-2. 事業領域と業績

■ M&Aと構造改革の徹底により、2017年度(IFRSベース)は各段階利益で過去最高額

	2014年度 (日本基準)	2015年度 (日本基準)	2016年度 (IFRS基準)	2017年度 (IFRS基準)	2018年度 (IFRS基準)
売上高	3.7兆円	3.8兆円	3.4兆円	3.7兆円	3.9兆円
コア営業利益	1,657億円	2,800億円	3,075億円	3,805億円	3,172億円
親会社の所有者に帰属する当期純利益	609億円	464億円	1,563億円	2,118億円	1,695億円

主な
M&Aの実績

大陽日酸
(2014年11月
連結子会社化)

日本合成
(2016年完全子会社化)

ニューロダーム
買収(2017年10月)

欧州等産業ガス
事業買収(2018
年12月)

主な
構造改革

鹿島ナフサクラッ
カー削減(2014年
5月)

テレフタル酸インド・
中国事業譲渡(2016年
10月)

粉碎トナー事業終
了決定(2017年
12月)

欧州アクリル樹
脂シート事業譲
渡(2018年9月)

2020年度
迄に売上規
模3,000億
円程度の構
造改革を実
施

事業分野別営業利益推移

機能商品
ケミカルズ
産業ガス
ヘルスケア



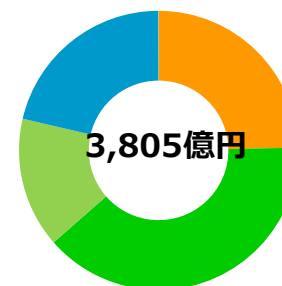
2014年度



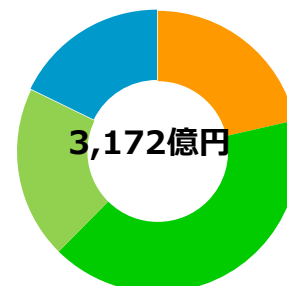
2015年度



2016年度



2017年度



2018年度

1-2. 事業領域と業績：田辺三菱製薬(上場子会社)の完全子会社化

- TOBを通じ田辺三菱製薬を完全子会社化(3月予定)
- 事業会社間の協業進化によるシナジー発現及び田辺三菱製薬の潜在的成長力の最大化を実現

人、社会、そして地球の心地よさがずっと続いていくこと＝KAITEKIの実現

Sustainability

Health

Comfort



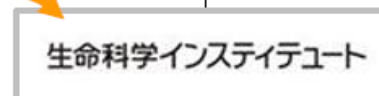
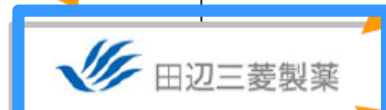
三菱ケミカルホールディングス

56%→100%

100%

51%

100%



- ・ 安定的R&D投資の支援
新たな医薬品や医療への投資
- ・ 田辺三菱製薬によるMCHCの海外の
財務・総務・人事関連機能の活用

- ・ Muse細胞の臨床開発の推進
(2020年度：申請、2021年度：承認をめざす)

- ・ グループ一体経営の効率化
(グローバルな人的・物流ネットワーク
の相互活用／グループ資金の効率運営)

- ・ メディカル・フード・バイオ
事業の新ソリューション創出
- ・ 機能代替医療機器に用いられ
る素材開発の推進

- ・ ヘルスケア・プラットフォーム構築
(ヘルスケア関連の人材・技術の共有)
- ・ 再生医療・予防・疾病管理分野
における取り組み強化

- ・ ガス、安定同位体を用いた医薬品、
診断薬の創製

デジタルメディスン、バイオ技術、マイクロバイオーム等の成長分野の強化

有機合成、バイオ技術

極低温／凍結技術

薬理学的有効性／安全性評価

吸着分離

分析技術、計算科学／シミュレーション

1-2. 事業領域と業績：田辺三菱製薬(上場子会社)の完全子会社化

- 当社グループ各社間におけるバイオテクノロジー、化学、及びデジタル分野の技術と人材を、機動的かつ柔軟に活用することで、社会課題を解決するソリューションを創出する
- シナジー創出委員会を設置し、各成長事業分野にて検討を開始し、シナジー発現をめざす

テーマ	三菱ケミカル ホールディングス	三菱ケミカル	田辺三菱製薬	生命科学 インスティテュート	大陽日酸
再生医療・ プレジジョンメディシン		Muse細胞事業推進 細胞培養向け材料、遺伝子治療、核酸医薬、コールドチェーン			
医薬＋医療材料		素材開発、3 DP加工技術、人工関節、 歯科材料、機能代替材、DDS			
製剤/中間体事業			事業効率化/明確化		
医療用ガス			17O等		17O等
マイクロバイーム	乳酸菌、腸溶カプセル等				
DX/ヘルスケア統合 プラットフォーム	✓	✓	✓	✓	✓
コーポレート連携	✓	✓	✓		
コーポレートベンチャー キャピタル	✓		✓		

2. 三菱ケミカルホールディングスのこれから

2-1 中期経営計画*APTSIS20*と進捗

2-2 成長戦略

名 称 アプトシス
APTSIS20

期 間 2016年～2020年度

■ 機能商品、素材、ヘルスケア分野の事業を通じて、高成長・高収益型の企業グループをめざす

高成長

- グループにおけるインテグレーション・協奏促進
- 海外事業の展開加速とマネジメント深化

高収益

- 収益性を意識したポートフォリオ・マネジメントの強化
- コスト削減等を通じた生産性の高い企業体質の実現

財務基盤強化

- 田辺三菱製薬完全子会社化によりNet D/Eレシオは1.8に上昇

		2019年度予想	2020年度目標
財務指標 (MOE)	コア営業利益	2,100億円	4,100億円
	ROS（コア営業利益）	5.8%	9%
	親会社の所有者に 帰属する当期利益	810億円	2,200億円
	ROE	6.2%	13%
	Net D/E レシオ	1.8	1.0

2-1.中期経営計画APTSIS20と進捗 投資計画進捗と投資額

■ 産業ガス大型買収等により2019年度までに1.0兆円の投融資*を実行

*「投資活動によるキャッシュ・フロー」に分類される支出に限定、完全子会社化資金(田辺三菱製薬等)は含まず

重点投資事業領域

機能商品

新規市場

高機能フィルム

情電・ディスプレイ

⇒ インドネシアポリエステルフィルム増強

食 品 機 能 材

高機能ポリマー

⇒ 米国「ソアノール」能力増強

新規技術

高機能エンブラ

炭素繊維複合材料

機 能 化 学 品

素 材

海外展開

産 業 ガ ス

M M A

⇒ Praxair社欧州事業買収完了/Linde社米国HyCO事業買収完了

ヘルスケア

北米展開

医 療 用 医 薬 品

VLPワクチン

新規市場

再 生 医 療

その他

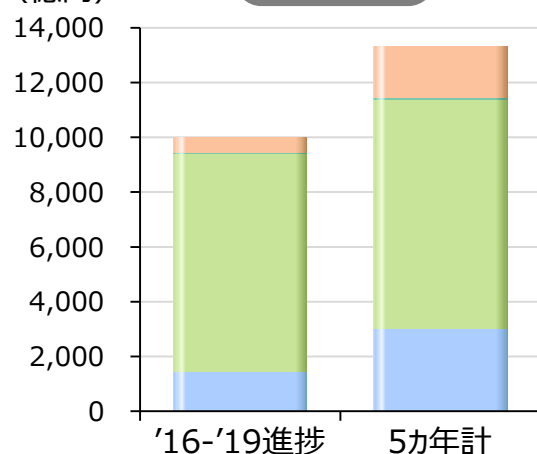
⇒ Science & Innovation Center研究棟新設

【資源配分イメージ】

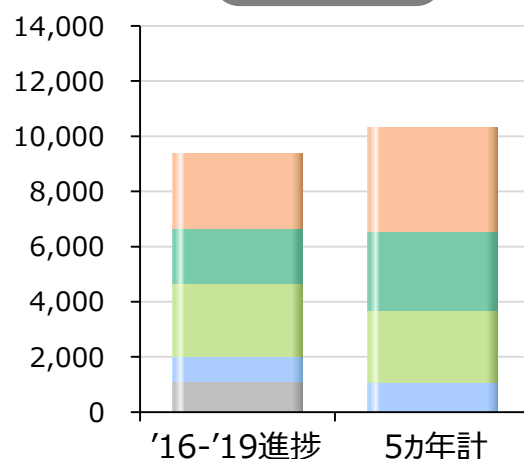


(億円)

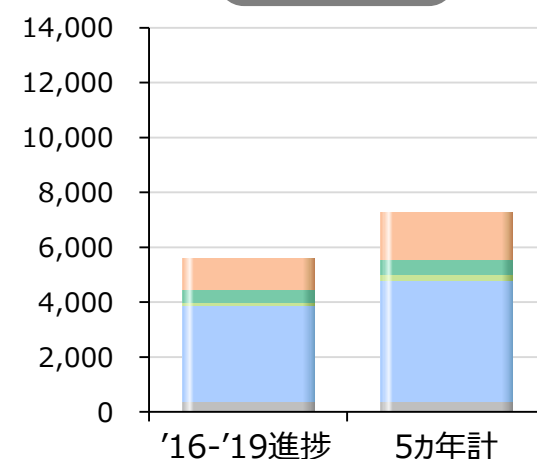
投 融 資



設備投資

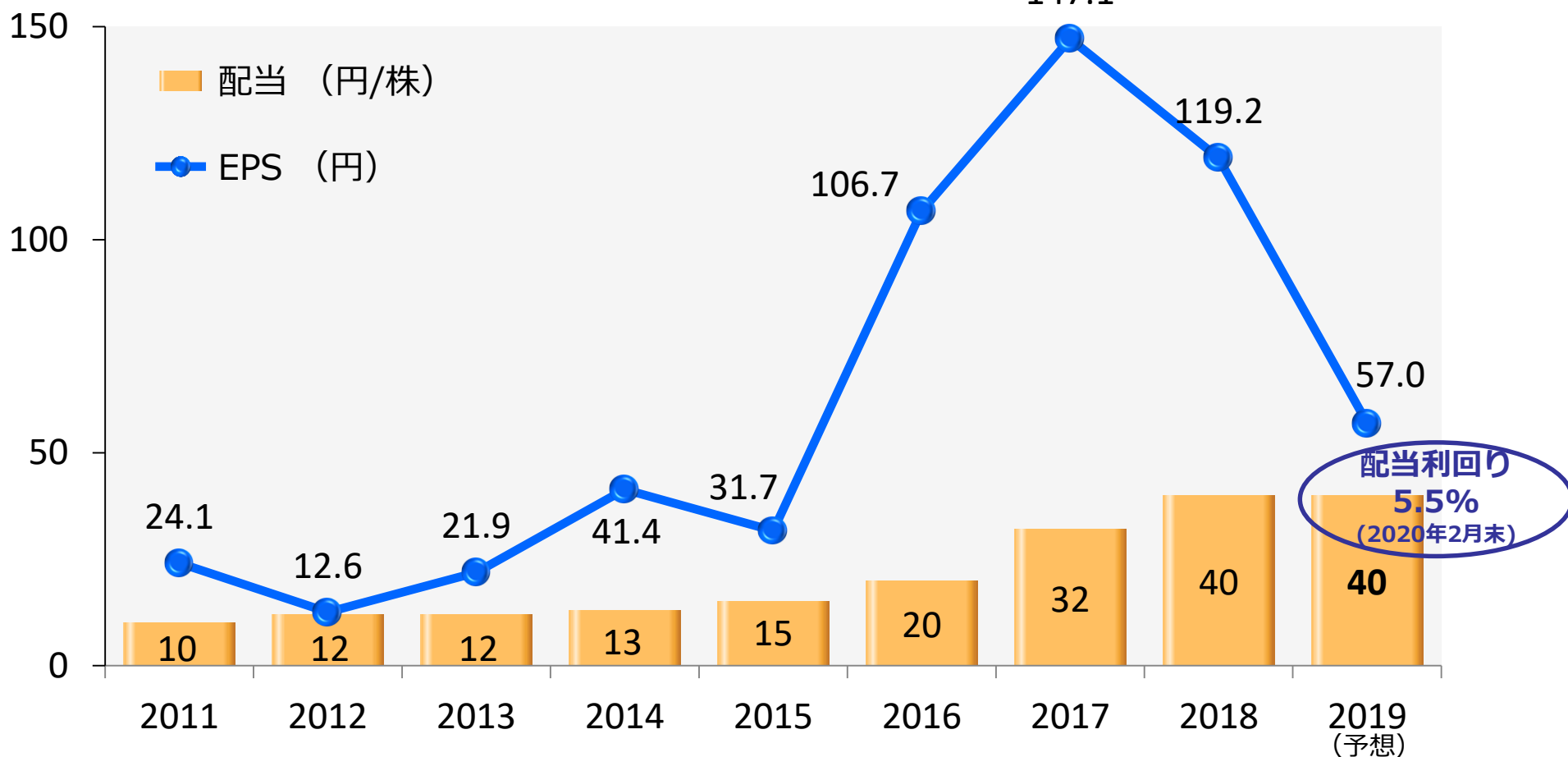


R&D費用



- 企業価値の向上を通じ、株主価値の向上をめざす
- 配当政策については、成長投資・財務体質の改善とのバランスを考慮し、安定的配当を実施（中期的な配当性向の目安を30%とする）

(配当、EPS)



2. 三菱ケミカルホールディングスのこれから

2-1 中期経営計画*APTSIS20*と進捗

2-2 成長戦略

■ 世界のマクロトレンドとKAITEKI経営上の優先課題

世界のマクロトレンド

気候変動の増大、水資源の汚染・不足、グローバル化と新興国の発展、地域経済圏の拡大、産業のデジタル化・モジュール化・ICT化、人口の増加、高齢化の進展、医療費の増大、再生医療・個別化医療の進展

KAITEKI実現に向けたマテリアリティを選定

マテリアリティ

資源・エネルギーの効率的利用
健康維持への貢献

気候変動への対応
疾病治療への貢献

清浄な水資源の確保
食料・農業問題への対応

フォーカス市場(成長分野)

IT・エレクトロニクスディスプレイ

自動車・航空機(モビリティ)

環境・エネルギー



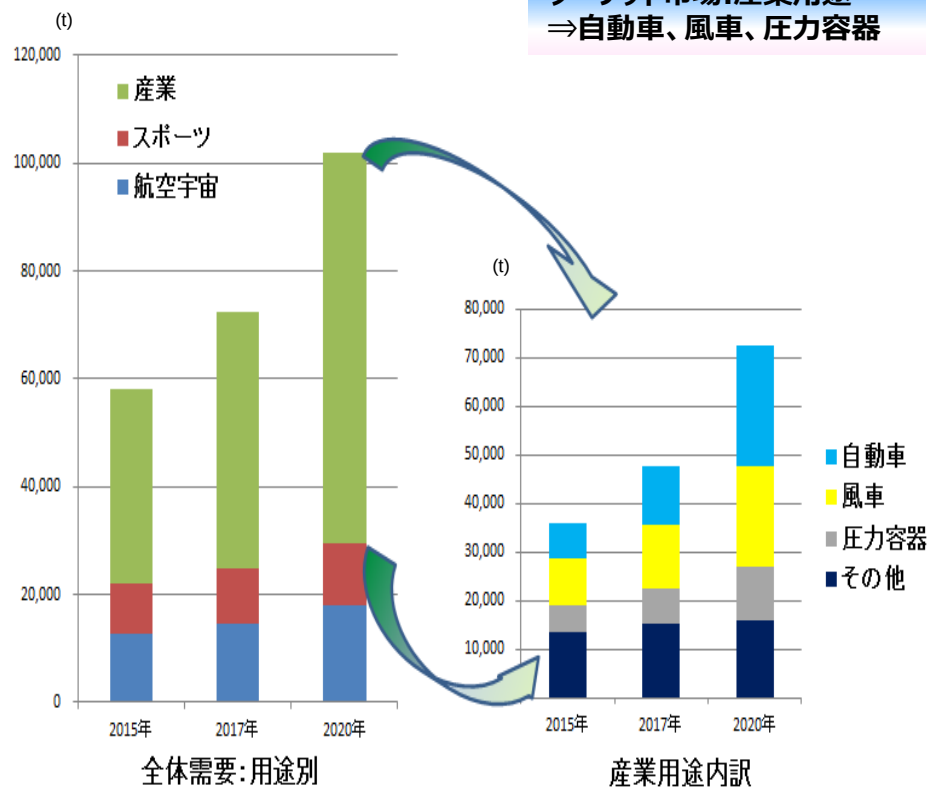
パッケージング・ラベル・フィルム

メディカル・フード・バイオ

ヘルスケア



- 中間基材強化により、ポートフォリオ転換し収益力強化
- 成長領域である産業用途の自動車用途でトップポジション構築



レクサス新型ラグジュアリークーペ「LC500」「LC500h」のドアインナー及びラゲッジインナーに採用(2017年5月)



プレミアムスポーツクーペ Audi A5のルーフに採用(2017年6月)



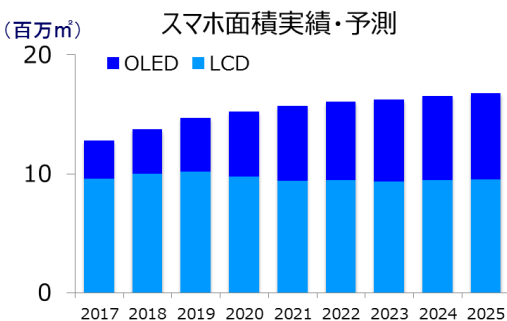
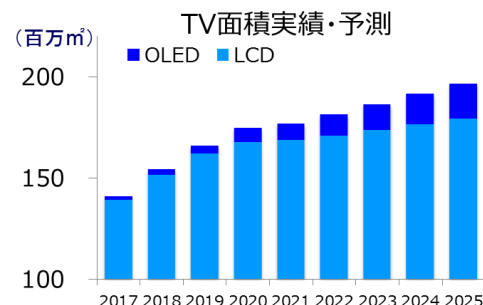
C.P.C.社
世界最大規模の複合材料プレス設備

- 液晶ディスプレイ（LCD）向けフィルムの競争優位性を堅持することに加え、有機EL（OLED）向け部材の市場増大を確実に取り込む



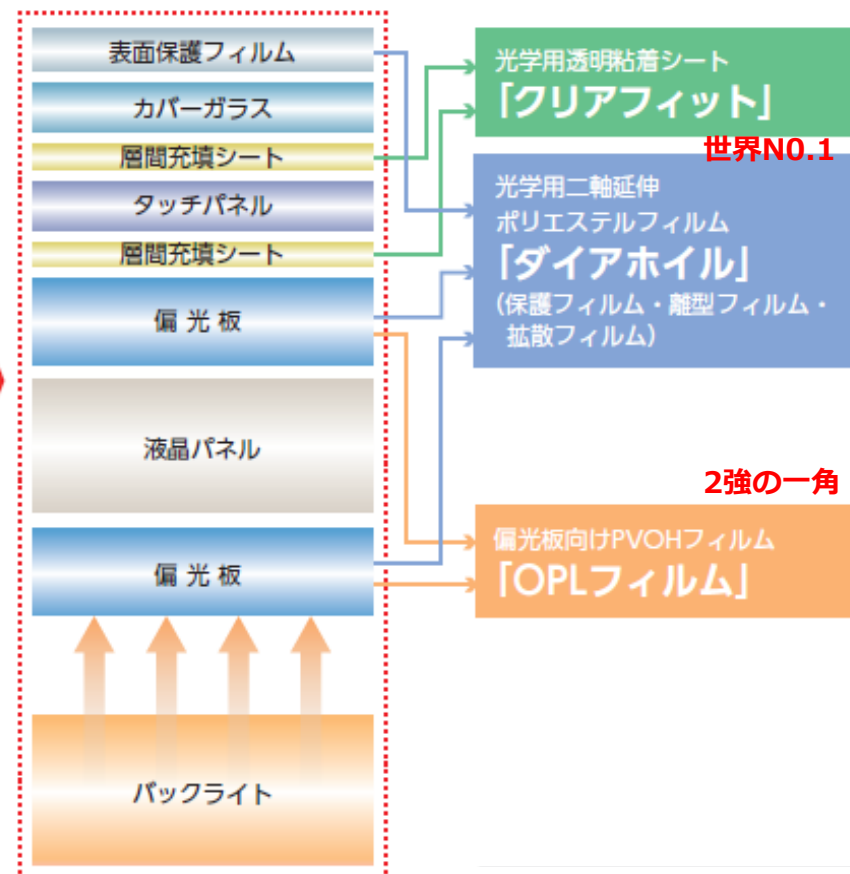
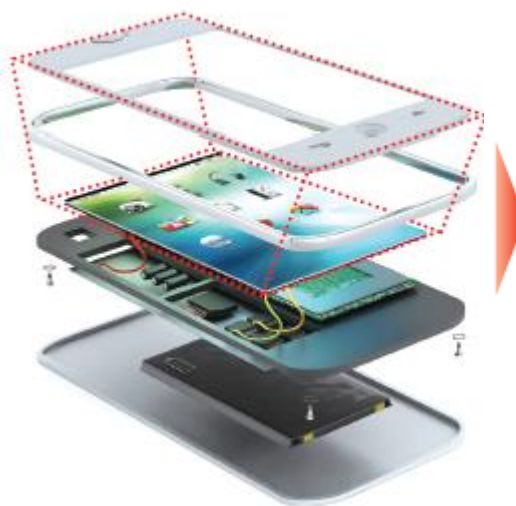
世界のディスプレイ市場

ディスプレイ市場は、今後も堅調に推移。
スマホ向けはOLEDが伸長



出典:HIS Markit

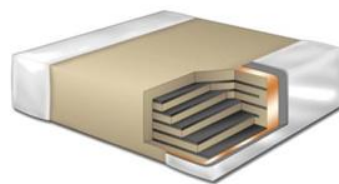
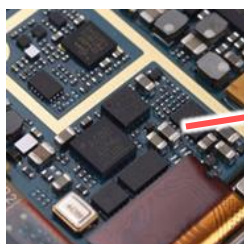
スマートフォンの構成例



■ 半導体関連事業拡大：積層セラミックコンデンサ向けの高機能・高品質ポリエステルフィルムの展開(車載用含む)



積層セラミックコンデンサ (MLCC)



縦横0.2~1.0mm長

デバイスの電気回路を駆動させる上で重要な部品
スマートフォン 1 台に約700個以上使用されている

MLCCの 需要予測

自動運転システム発展やIoTの普及により増加中



高機能・高品質ポリエステルフィルム

MLCC生産時の工程材料として、
ポリエステルフィルムを使用

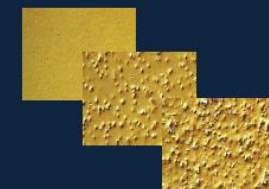
コンデンサーの容量・性能を向上させるために
ポリエステルフィルムの表面機能への要求あり

表面の平坦性

傷・異物の低減

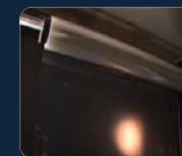
三菱ケミカル保有の製造技術で対応

表面
形状
設計



多様な表面形状

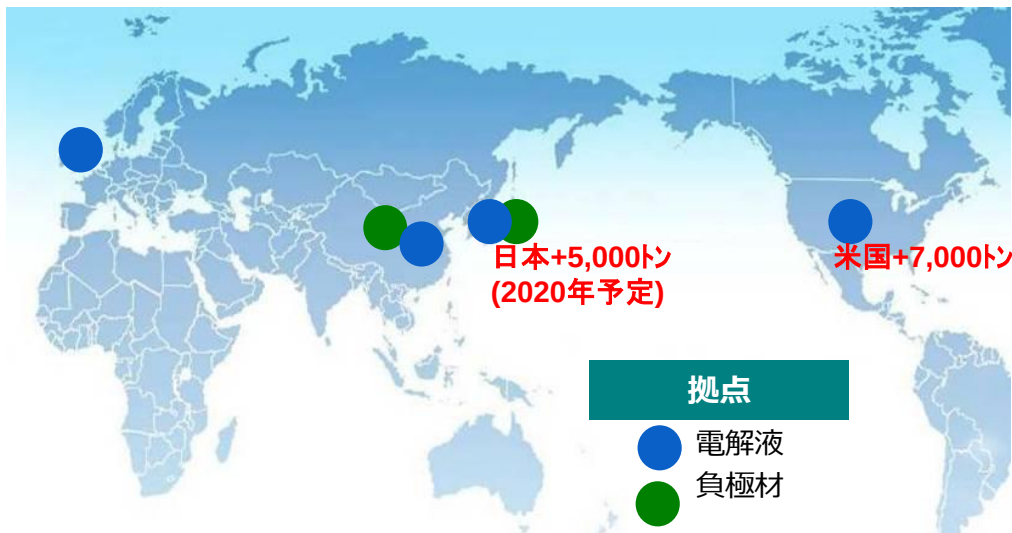
傷, 異物
徹底管理



■ 電池材料の事業拡大と高機能化

電解液：市場拡大に対応する生産能力増強

負極材：電池性能向上へ寄与する新規製造プロセス開発

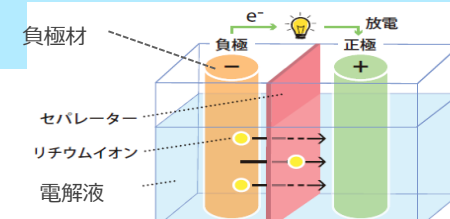


電 解 液

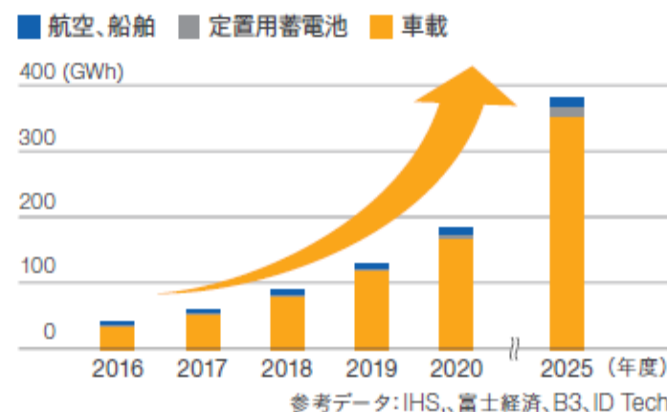
- 車載用電池の需要に合わせた継続的な増産：米国(2019年)、日本(2020年)増産予定

負 極 材

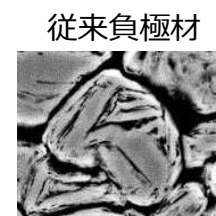
- 天然黒鉛系負極材の課題である膨張を抑制する世界初の製造プロセスを開発
- 電池長寿命化と急速充電性能向上に寄与する、同プロセスによる新規負極材を市場投入



LIB大型用途別需要見込み



新規天然黒鉛系負極材



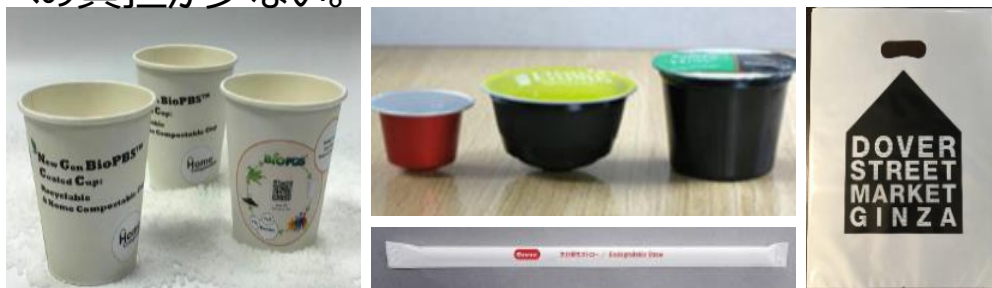
電子顕微鏡による負極材の画像

■ 生分解性プラスチックや植物由来ポリマーの研究・用途展開を加速し、循環型社会の構築やSDGsの達成に貢献

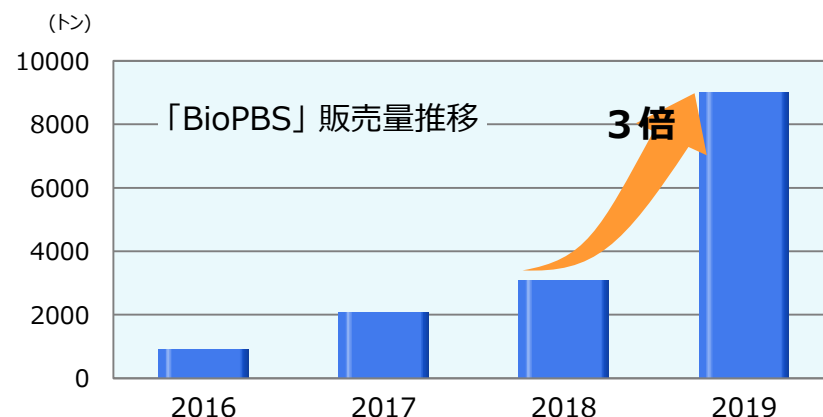


生分解性ポリマー*「BioPBS」の用途展開加速

*植物由来生分解性プラスチックで土中の微生物によって、水と二酸化炭素に分解するため、自然環境への負担が少ない。



(左) コンテストで受賞した紙コップ
(中) コーヒーカプセル、ストロー(ワシントンホテル、京急グループ施設)
(右) コム デ ギャルソン直営店で「BioPBS」製ショッピングバッグ採用



植物由来ポリマー「DURABIO」の事業強化・拡大

- イソソルバイドを主原料とする「DURABIO」の生産能力を5,000トン/年から8,000トン/年に増強
- 自動車用途に加え、Lenovo社製スマートフォンの筐体に採用、事業拡大をめざす



(左) 「DURABIO」が採用された「マツダ CX-5」
(右) Lenovo社製スマートフォン: 3D形状背面板に「DURABIO」が採用

■ 高性能バリア製品の能増と拡販：食品包装材の需要拡大に応じたグローバル生産・販売体制の拡充



世界

廃棄される食料の割合

約30%

重量換算

約10.3億トン

(出展：国連農業食料機関)

日本

廃棄される食料の割合

約30~50%

重量換算

約1,700万トン

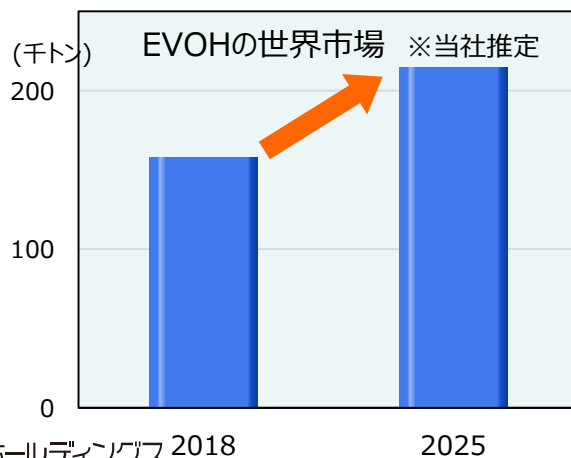
(出展：農林水産省)

フードロス問題

EVOH* : 「ソアノール」の事業拡大

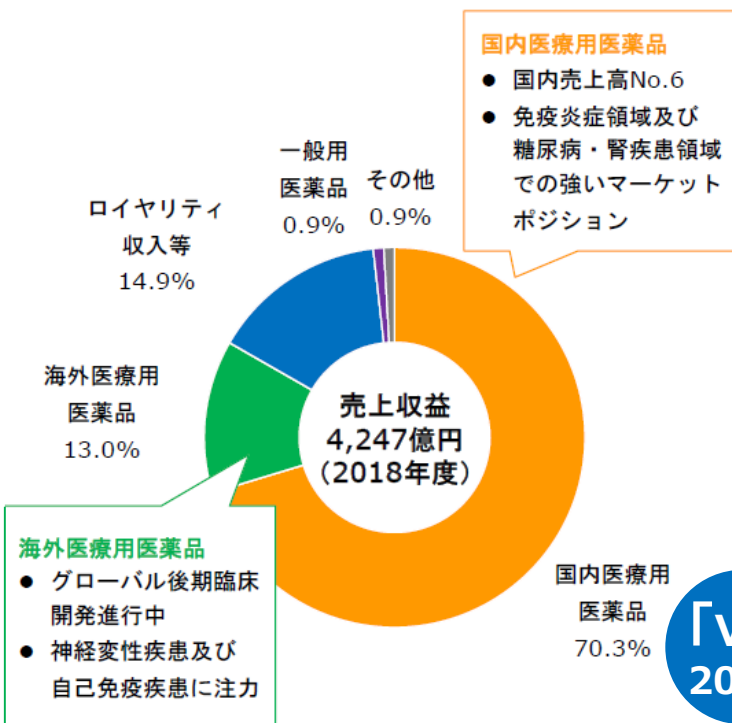
*EVOH：エチレン・ビニルアルコール共重合樹脂

- 推定世界シェア第2位の日米欧のグローバル供給能力を増強
- 高いガスバリア性を活かし、食品包装材の用途展開を加速

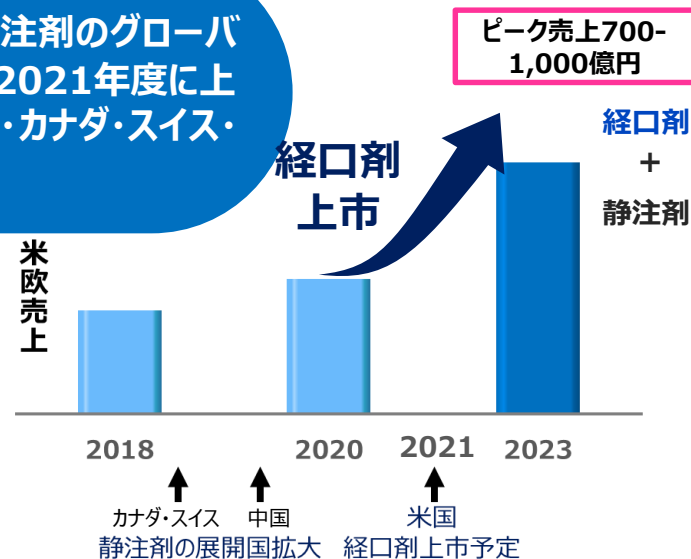




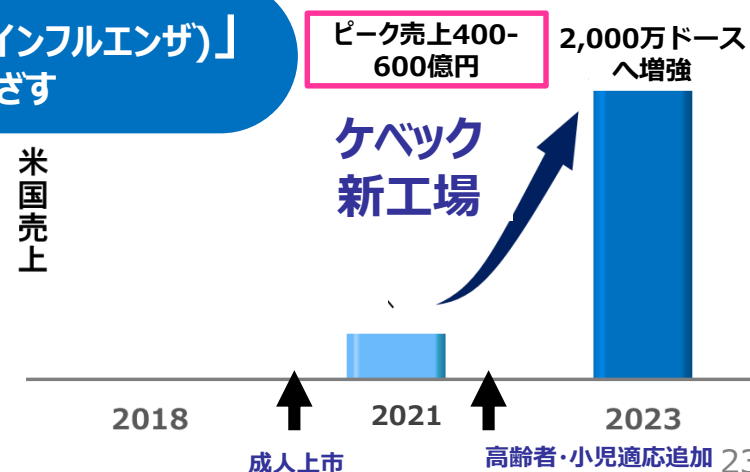
■ ALS治療薬ラジカヴァの経口剤などの自社開発品の上市等で米欧市場の拡大をめざす



「ラジカヴァ」 静注剤のグローバル展開と経口剤を2021年度に上市予定(日・韓・米・カナダ・スイス・中国で承認取得)



「VLPワクチン(季節性インフルエンザ)」 2021年度米国販売をめざす



- 独自製造技術による細胞製造とコールドチェーンの構築でMuse細胞製品を商業化
- 2020年度の承認申請、2021年度の承認取得をめざす



2017 2018 2019 2020 2021 2025

臨床試験

2018年 1月 急性心筋梗塞

2018年 9月 脳梗塞

2018年12月 表皮水疱症

2019年7月 脊髄損傷

申請

独自技術

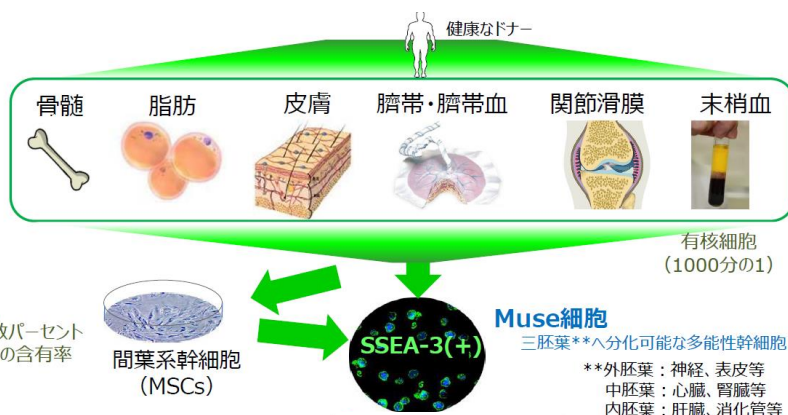
細胞培養技術



冷凍保存技術

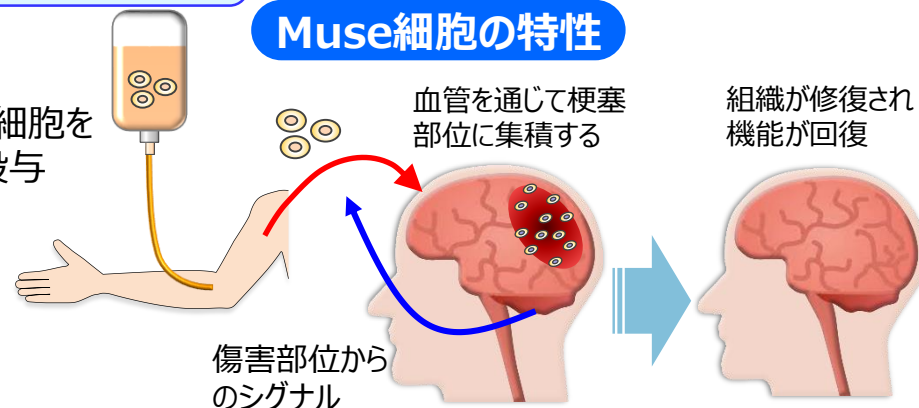
承認

販売



Muse細胞を点滴投与

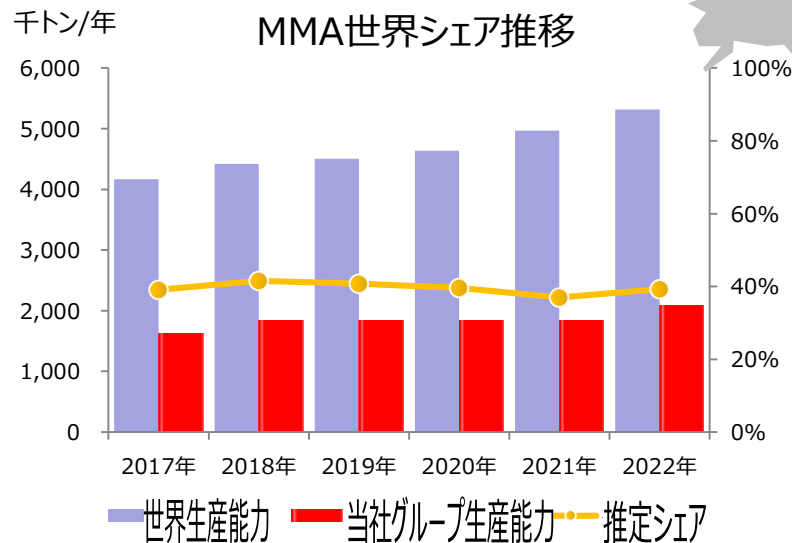
Muse細胞の特性



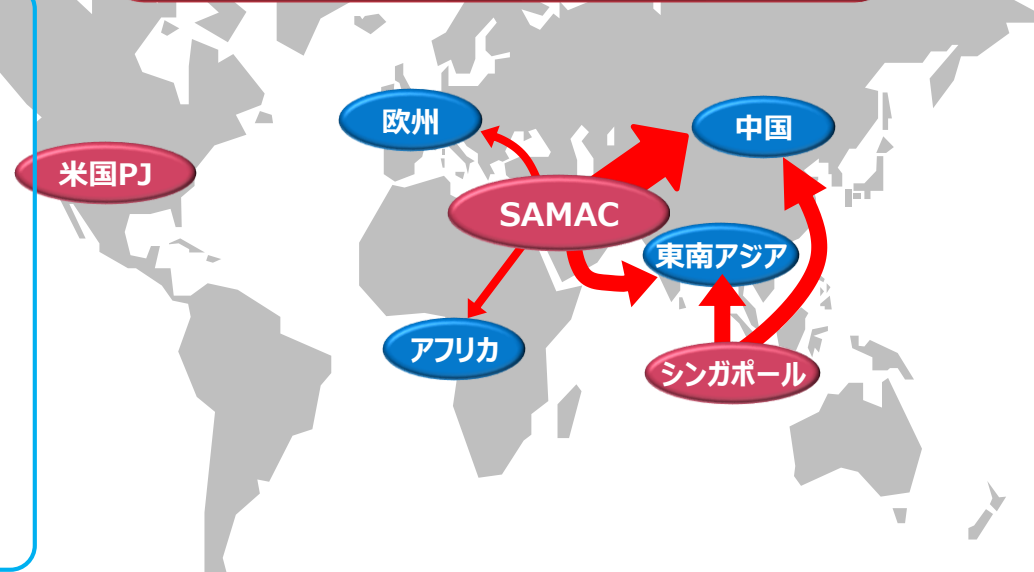
遊走能・自発的分化能

※Muse細胞：2010年に東北大学の出澤真理教授らにより発見された生体内に存在する多機能性幹細胞

- 世界シェアNo.1
- コスト競争力で優位な当社独自製造法のアルファ法を展開
- アルファ法による中東工場の本格運転など積極的なグローバル展開によりシェアNo.1のポジションを維持・拡大



MMAアルファ法のグローバル展開



耐候性のある
大型看板用途



透明性を活かした
水槽板用途

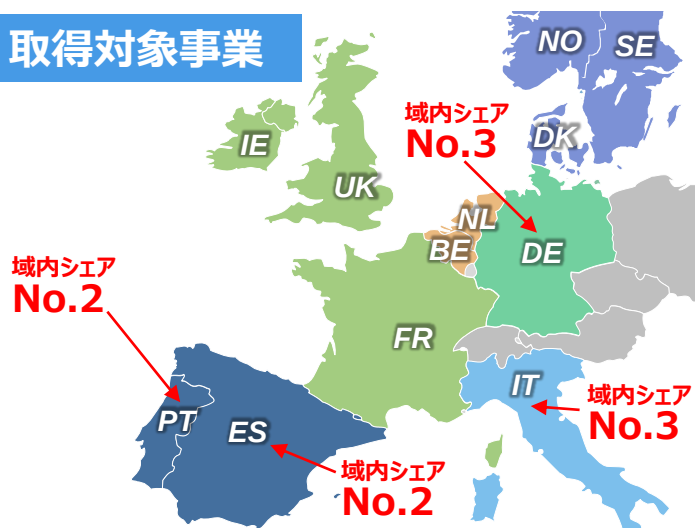


自動車ブレーキラン
プなどの工業用
部材

- 欧米事業買収が完結、海外メジャーに並ぶ規模に拡大
- 産業ガスの長期経営ビジョンである『売上収益 1 兆円』を射程に捉える

Praxair社の欧州事業買収

取得対象事業



買収対象事業

- 買収額：4,934百万ユーロ（約6,358億円*）

*1ユーロ＝128.86円（2018.12.3付）

- 主な資産等の概要：設備数

空気分離装置	シリンダー等 充填設備	液化炭酸 設備	ドライアイス 設備
27	35	12	19

- 売上収益：1,680億円*

- コア営業利益：255億円*

*1ユーロ：120円(2020年3月期想定レート)

Linde社の米国HyCO事業買収



買収対象資産

- 独Lindeが米国に展開しているHyCO事業のうち、SMR式HyCOプラント(5ヶ所)、パイプライン、遠隔監視センター、供給契約、オペレーション技術、人的資源

- 買収額：416百万米ドル（約461億円*）

*1USDドル＝110.59円（2019.2.28付）

3. KAITEKI経営の深化

3. KAITEKI経営の深化

■ 私たちは、製品・サービスを通じて社会的課題を解決します

- 資源・エネルギーの効率的利用
- 清浄な水資源の確保
- 健康維持・疾病治療への貢献
- 気候変動への対応（CO₂削減）
- 食糧・農業問題への対応
- スマート社会への対応

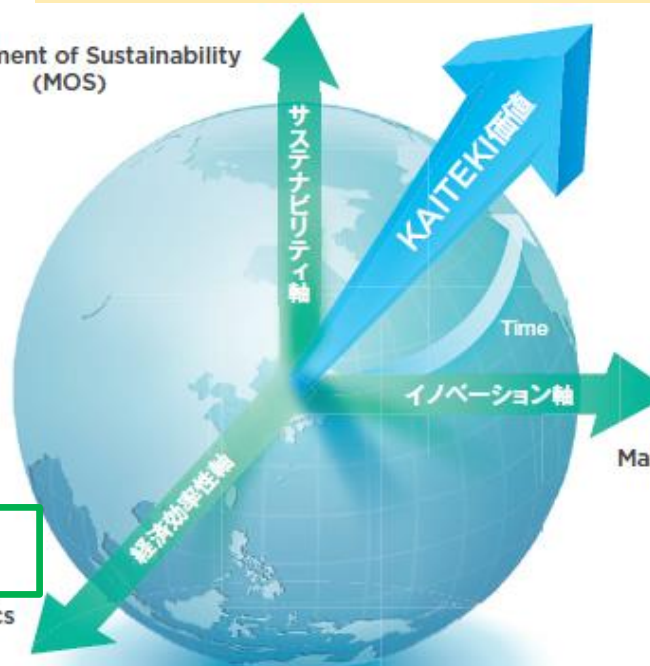
SDGs



サステナビリティの向上をめざす経営
MOS

非財務価値

Management of Sustainability
(MOS)



イノベーション創出を追求する経営
MOT

Management of Technology
(MOT)

資本の効率化を重視する経営
MOE

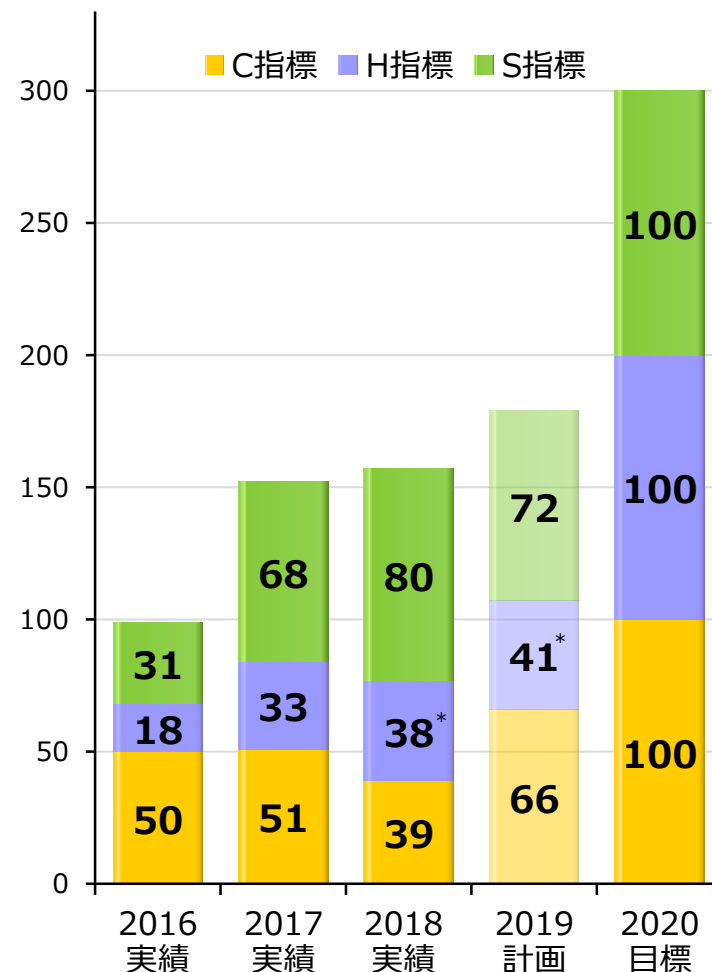
Management of Economics
(MOE)

3. KAITEKI経営の深化：MOS活動の進捗状況

- 社会課題解決に貢献するMOS活動の目標設定とモニタリングによって、サステナビリティの向上をめざす

MOS活動	2018年度結果	自己評価	2020年度目標
大気系環境負荷の削減	499 LIME／億円	☆☆☆	548.7 LIME／億円
製品・サービスによるGHG削減貢献	7.5百万t-CO ₂ 削減	☆☆	15百万t-CO ₂ 削減
製品・サービスによる再生可能エネルギーの創出貢献	55.6Mw 創出拡大	☆☆☆	50Mw 創出拡大
製品・サービスによる疾病予防貢献（ワクチン）	7.8ポイント 達成（指数）	☆☆	14ポイント達成 （指数）
Comfort製品の販売拡大	8.8%増加	☆	40%増加
事故・災害の防止：休業度数率改善	17.0%悪化	-	50%改善

MOS指標の進捗



*LSIメディエンスの事業譲渡の影響を含む

■ 価値創出の源泉である「人」への戦略的投資を推進（KAITEKI健康経営）



健康支援、働き方改革、ダイバーシティ推進

- 熱意・信頼・成長をキーワードに、働きがいを向上
- 労働環境の整備 **テレワーク制度、サテライトオフィス導入、集中ワークゾーン設置**
- 健康経営KPIの設定 **いきいき活力指数、健康指数、働き方指数**
- 健康サポートシステム活用 **ウェアブルデバイス i² Healthcare 配布・活用**
- グローバル人材育成等 **Experience JAPAN、グローバル人事データベース構築**



ウェアブルデバイス i² Healthcare

睡眠の質・心拍数等各従業員が自分の状況を把握



Experience JAPAN

外国人従業員が日本のビジネス習慣等を理解するプログラム

3. KAITEKI経営の深化：ESG評価向上(Governance関連／ESG外部評価)

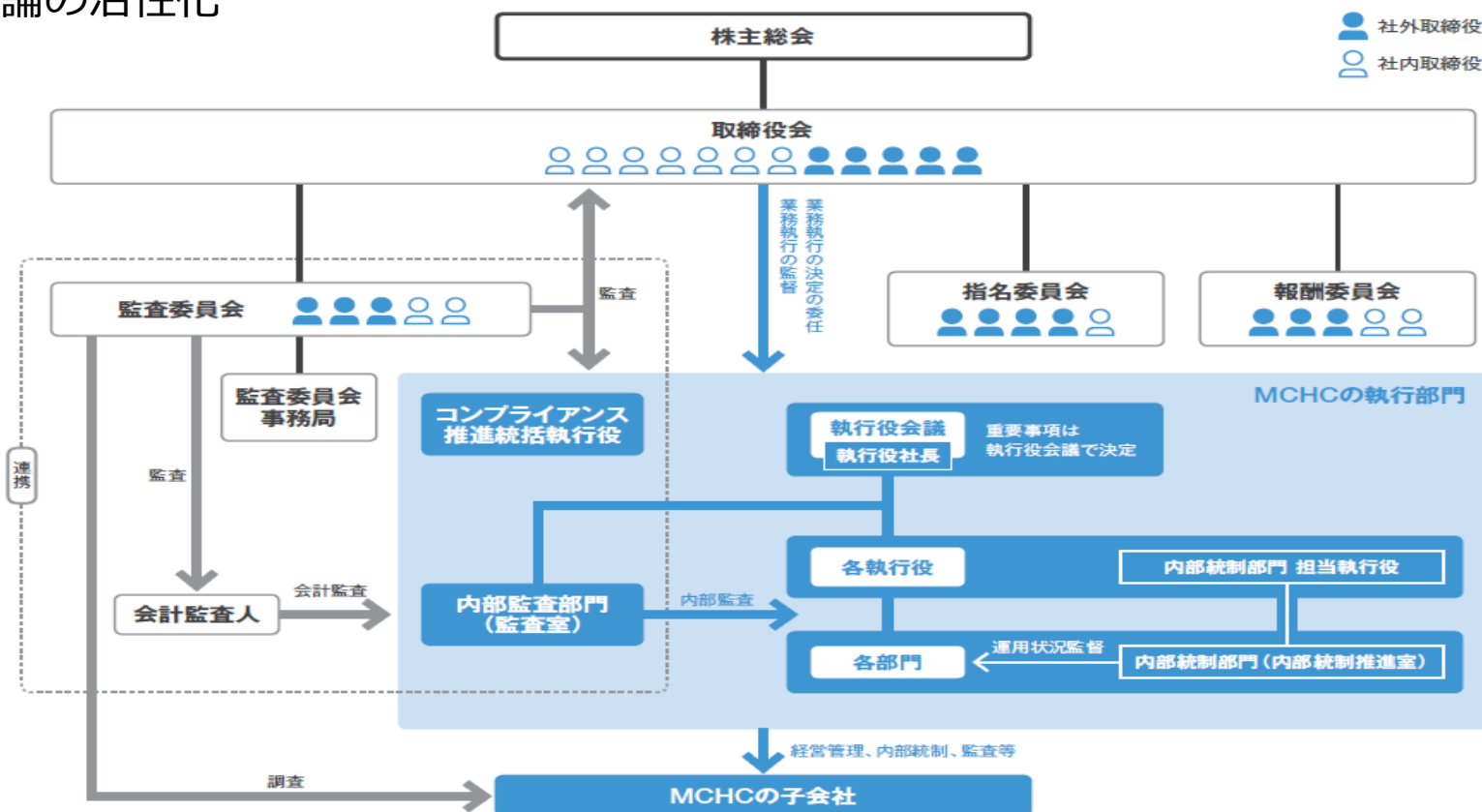
■ ガバナンス体制の強化により、ポートフォリオマネジメントの深化を図る

■ MCHCと事業会社との役割・機能の一層の明確化

執行と監督の分離（取締役会の構成変更と執行役会議の設置）

■ 取締役会の実効性の向上

取締役に期待する分野（能力）の明確化、経営経験を有する社外取締役の充実、社外取締役による議論の活性化

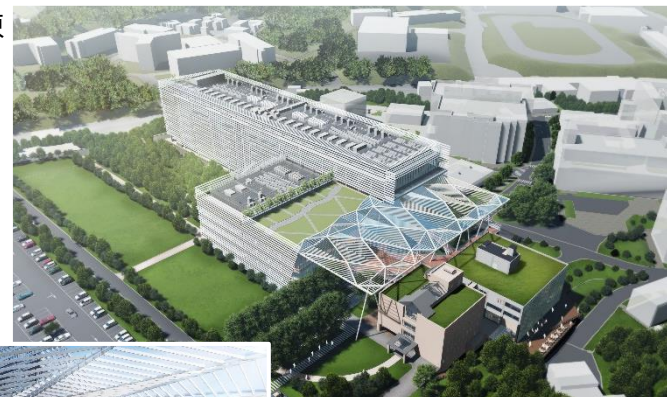


- デジタル化とオープンイノベーションに対応した研究施設の刷新
- 医療用医薬品の研究開発拠点再編による機能強化

SIC研究棟新設（三菱ケミカル）

- Science & Innovation Center（横浜）に新研究棟を建設、R&D強化及び、社内外オープンイノベーションを促進
 - ・ ビッグデータやAIの活用を可能とする最新鋭デジタルインフラの導入
 - ・ コラボレーションエリアやウェブ会議システム等社内外のパートナーとリアル／バーチャルに繋がる設備の導入とオフィス環境の改善

SIC新研究棟
完成外観図



SIC新研究棟
完成内部イメージ

拠点再編によるR&D機能強化（田辺三菱製薬）

- 戸田・横浜事業所を湘南・横浜事業所に再編し、オープンイノベーション機会を拡大
- 加島事業所の技術機能（CMC）を小野田事業所に集約



湘南事業所（湘南iPark内）



小野田事業所 研究新棟 完成外観図

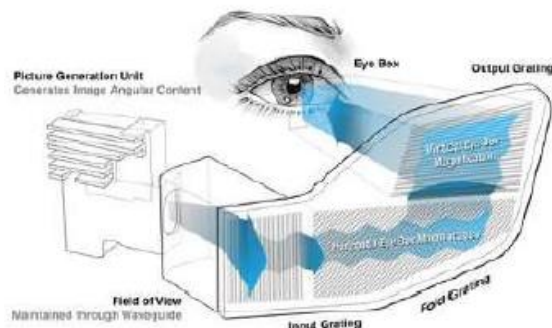
3. KAITEKI経営の深化：MOT コーポレートベンチャーキャピタルの活用

- グローバルに最先端技術や新しいビジネスモデルにアクセスし、既存の視点を超えた次世代のビジネスチャンスを創出

Diamond Edge Venturesの投資先 (2020年2月12日現在)

DIGILENS 

AR/VRデバイスを軽量化・高性能化する画期的な導光板システムの開発



2018年10月出資

基板の樹脂化による軽量化・安全性向上において三菱ケミカルと協業開始

AddiFab 

今まで不可能だった複雑形状の高性能射出成形用樹脂型をスピーディに印刷

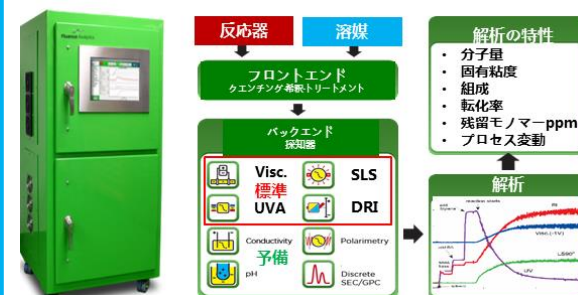


2019年6月出資

マテリアルにおける共同開発、顧客の製品開発のスピード化を支援する協業を開始


Fluence Analytics

Industrial IoTを実現するポリマー製造モニタリングシステム



2019年5月出資

樹脂製造の高機能化をめざし、三菱ケミカルとトライアル開始

3. KAITEKI経営の深化：イニシアチブへの積極的参画と第三者評価

■ さらなる企業価値向上に向け、KAITEKI価値のグローバル化を表明



持続可能な社会の構築に向けて主要なイニシアチブに参画

- WEF* 第4次産業革命日本センターへの参画（2018年7月） *World Economic Forum
- 海洋プラスチック問題対応協議会への発起人参画（2018年9月）
- TCFD**提言への支持表明（2018年10月） **Task Force on Climate-related Financial Disclosures
- 経産省グリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンスへの参加表明（2018年11月）
- 国際的なアライアンス(AEPW***、エレン・マッカーサー財団 CE100)への参加表明（2019年1月） ***Alliance to End Plastic Waste
- Value Balancing Allianceの参画(2019年12月)

ESG諸活動の進展により、第三者企業評価も向上



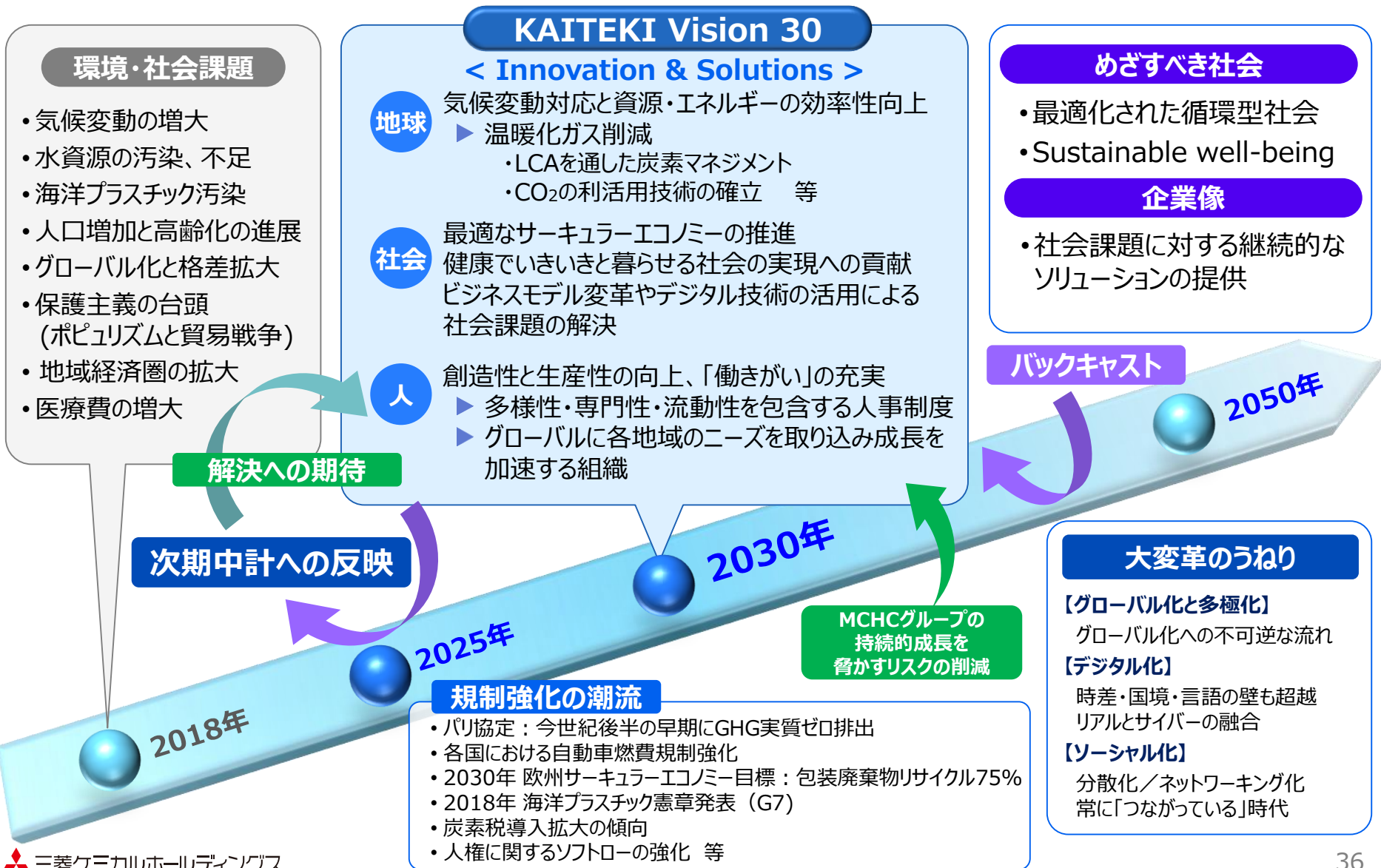
※1 2018年11月時点

※2 (株)三菱ケミカルホールディングスのMSCI指数への組み入れ、およびMSCIのロゴ、トレードマーク、サービスマーク、指数名称の使用は、MSCIやその関係会社による(株)三菱ケミカルホールディングスの後援、推薦あるいはプロモーションではありません。MSCI指数はMSCIの独占的財産であり、MSCIおよびその指数の名称とロゴは、MSCIやその関係会社のトレードマークもしくはサービスマークです。

4. KAITEKI Vision 30

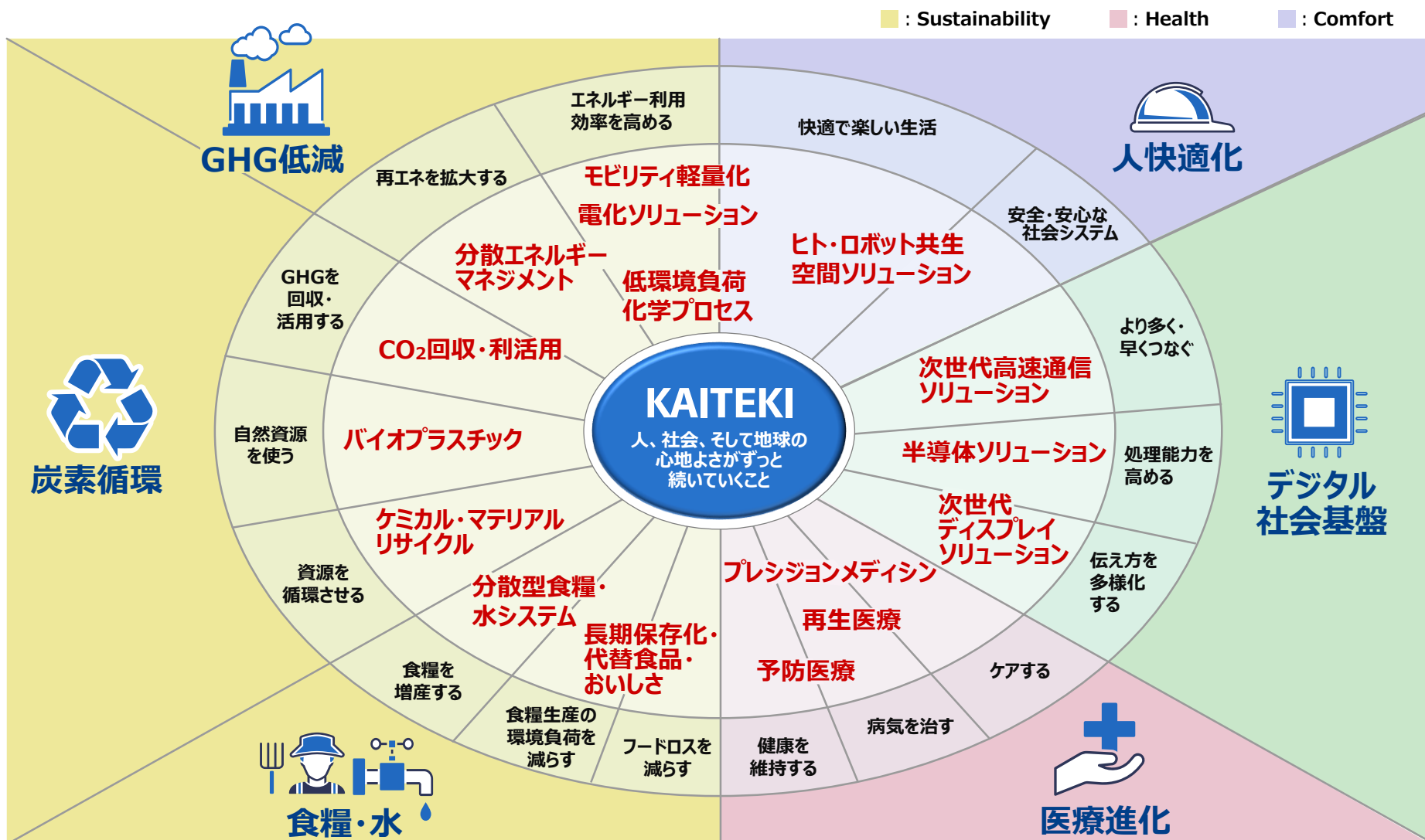
4. KAITEKI Vision 30 (KV30) : 全体像

■ 次期中期連結経営計画の骨格となる2030年の企業像の明確化



4. KV30: 2030年ポートフォリオの柱

■ 社会課題の解決に貢献する「成長」事業群



4. KV30: 事業ポートフォリオ変革

■ 選定された「成長」事業を中心とした事業ポートフォリオへの変革

2018年

売上収益 3.9兆円

2030年

売上収益（目線） 6.0兆円

GHG低減
炭素循環
食糧・水
デジタル社会基盤
人快適化
医療進化

25%

GHG低減

炭素循環

食糧・水

デジタル社会基盤

人快適化

医療進化

70%超

ご清聴ありがとうございました

株式情報(2019年9月30日現在)

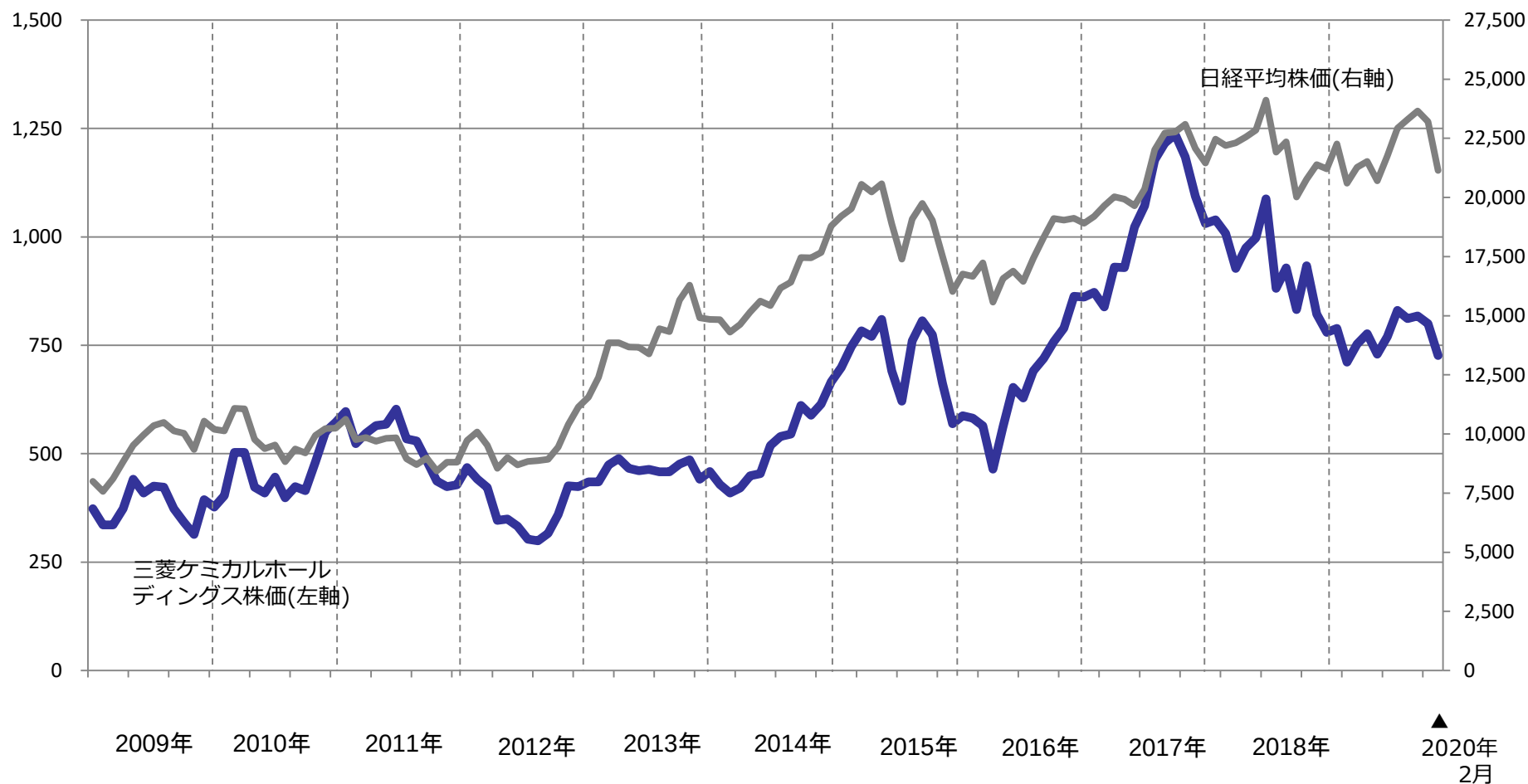
証券コード：4188(東証一部)

発行済株式数：1,506,288,107株

単元株式数：100株

株 価

株主数：227,038名



■ 会社資料紹介

三菱ケミカルホールディングスホームページ：http://www.mitsubishichem-hd.co.jp
の「IR・投資家情報」サイトでは、適時開示情報や決算説明資料を含む決算情報等の情報を掲載しております。

三菱ケミカルホールディングス THE KAITEKI COMPANY

→ FAQ 🔍 サイト内検索 LANGUAGE: ENGLISH 中文

グループについて ニュースリリース KAITEKI経営 IR・投資家情報 イノベーション サステナビリティ 採用情報 お問い合わせ

ホーム > IR・投資家情報 > 個人投資家の皆様へ

個人投資家の皆様へ

個人投資家の皆様へ

三菱ケミカルホールディングスをより深くご理解いただけるよう、当社グループの概要、業績、今後の戦略を中心にご紹介してまいります。

代表執行役社長 越智 仁

- IR・投資家情報
 - 社長メッセージ
 - CFOメッセージ
 - 適時開示情報
 - IRトピックス
 - 情報開示方針
 - IRカレンダー
 - 中期経営計画
 - IRライブラリー
 - 株主・社債持主

本説明会および本資料における見通しは、現時点で入手可能な情報により当社が判断したものです。実際の業績は様々なリスク要因や不確実な要素により、業績予想と大きく異なる可能性があります。

当社グループは情電・ディスプレイ関連製品、高機能成形材料、高機能ポリマー、MMA、石化製品、炭素製品、産業ガス、医薬品等、非常に多岐に亘る事業を行っており、その業績は国内外の需要、為替、ナフサ・原油等の原燃料価格や調達数量、製品市況の動向、技術革新のスピード、薬価改定、製造物責任、訴訟、法規制等によって影響を受ける可能性があります。

但し、業績に影響を及ぼす要素はこれらに限定されるものではありません。